

【様式1】

令和5年度 授業改善推進プラン

東久留米市立本村小学校 第3学年

教科	学力に関する各調査に基づく児童の学習状況分析 (数値等で具体的に示す)	具体的な授業改善策及び目標値 (数値等で具体的に示す)
国語	<ul style="list-style-type: none"> 平仮名、片仮名、言葉の表記（促音、長音など）がまだ十分に習得していない児童が20～25パーセントほどいる。 漢字の習熟度に差があり、習熟について十分と認められる児童が75パーセント、課題と認められる児童が25パーセントいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 週に1回以上、日記等作文を書く学習を取り入れ、個別に表記の間違いを正していく。 国語の授業開始5分間で、漢字、音読など基本的な学習内容を習熟する時間を設ける。
算数	<ul style="list-style-type: none"> 時刻と時間の概念に課題があり、40パーセント程度の児童に課題が見られる。（時刻と時間ワークテスト平均65点/100） 	<ul style="list-style-type: none"> 継続して時刻や時間を意識できるような言葉かけを、算数の授業だけでなく日常的に継続していく。 算数の時間の最初に5分間のスキルアップタイムを設け、常に計算練習を行って四則計算を基本とした計算力の向上を図る。（ワークテスト平均80点以上を維持）
理科	<ul style="list-style-type: none"> 科学的事象について興味・関心があり知識はあるが、直接体験は少ない。直接体験のある児童は10～15パーセントほどである。 実験結果から考察したり、学習したことを踏まえて問題を解くことに課題の見られる児童が35～40パーセントほどいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 実物を用意し直接体験を個別に行えるような学習計画を立て、学習内容について実感を伴って理解できるようにする。 自分の言葉で実験結果をまとめたり、授業中に問題を解きながら復習したりして、定着できるようにする。（ノートやワークシートの記述ができている児童80パーセント）
道徳	<ul style="list-style-type: none"> 教材の内容について理解しているが、扱われている道徳的価値について自分事として捉え、振り返ることに課題の見られる児童が30パーセントほどいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 道徳的価値に関するアンケートを実施して振り返らせたり発問を工夫したりすることで、自分の生活や経験に振り返って考えを深められるようにする。 他の人の意見に触れられるよう、意見交流の場をつくり、友達の経験などを通して自分の生活に立ち返られるようにする。